

「あゝ……」と、非原はやはり方に捨てられたらそれこそわ  
歩調を緩めず、何か先に目的で  
もあるやうに。

「ねえ、この環はだのむ様に少  
「汽車で東京へ歸るよ。」  
「知らない。」と環は非原の

# ●勞友友愛坑夫代表の 東上途中の物語

## 能率減退官憲壓迫

### 初志の貫徹に努む

製鐵所事件に關し勞友友愛兩會  
及坑夫協會首腦連は最早此の上  
は中央政府及帝國議會を動かす  
の外途なしし友愛會九州出張  
所理事木村錠吉藤田文六勞友會  
の相原幹事坑夫協會員一名上京  
委員として十日夜八幡發東上の  
途に就きたるが十一日夜車中  
一行を訪へば木村錠  
吉氏は語る製鐵所二萬  
の職工は縱令工場に入つて居  
ても徒らに日向干子を  
續けて居るだけですから熔鑛  
爐は廢疾の外ありま  
すまい、開ふして能力は發揮  
して居りません全体の仕  
事の能力の八分の一  
しかありません當分仕  
の狀態を續ける事ではよ官  
憲の壓迫は益々甚だ  
しく職工が食堂で一  
寸騒いで居ると直ぐ  
憲兵が實彈を裝置し  
て押集せて來る様な有様で  
す仕事の事は總て職工よりは  
査等が指揮して居る様な狀態で  
す勞友會幹部は一時殆んど全部  
檢束されましたが残つた者や友  
愛會其他が各地で演説を開ひ  
た結果七名を發して五十名  
許り七日釋放され  
した製鐵所の回答は全く要求  
を得ませんでしたから我々は此の  
上は農商務大臣及醫保局長を訪  
問し詰問し尙ほ代議士を應訪し  
議會を動かし又一方演説會を  
開ひて事件の真相を發表し輿論  
を起す考へて我々は飽迄

製鐵所代表委員

# 辰相に肉迫